

これから開催するイベント一覧です。  
詳細やお申し込み方法は、  
サポートオフィスHP内の「イベント」ページを  
ご確認ください。



## スタッフコラム 番外編

今月号はサポートオフィスで職場体験をした柿生中学校の生徒さんの団体訪問レポートです。  
手描きの似顔絵イラストや、かわいい本の形のレイアウトも考えてくれました！

## 職場体験 ぼうけんノート

### 01 NPO法人目と心の健康相談室

目と心の健康相談室、その名の通り、看護師を定年退職された方が、全国の皆さんの不安を取り除いてくれます。病院で解決できなかったそんな目のお悩み。年齢層関係なく、幅広いジャンルに対応。とてもフレンドリーで話しやすい優しい先生です。利用者同士のオンライン交流会が月一で開催。同じ思いの人同士で話せるので気持ちが軽くなりとても人気だそうです。



### 02 つるかわ図書コミュニティ施設(つるぼん)

つるぼんは、新しい可能性が広がる場所を目指しています。元々市立図書館で、今は公共図書館の枠を超え、これまでにない民設の取り組みとして誕生しました。普通の図書館とはちがひ、ゆったりとした音楽が流れていて、くつろいだりゆっくりもでき、みんなと心で交流できる小さな幸せの工夫があるんです。来館者様の心の居場所になってほしいです。



### 03 鶴川冒険遊びの会(つるぼう)

子どもたちの成功体験や失敗体験を大切に、なるべく制限を無くして子どもたちが色々なことに挑戦できる環境を作っています。つるぼうの周りの団地に住んでいる方から子どもの声が聞こえて安心というなどの、声が上がっています。取材に行った日は、雨でしたが子どもたちが楽しそうに遊んでいるのを見るとこちらも元気をもらいました。



町田市地域活動サポートオフィスでは、地域活動に関する悩みや相談を受け付けています。電話やメール、または直接来所して相談することができます。



MAIL [info@machida-support.or.jp](mailto:info@machida-support.or.jp)

TEL 042-785-4871

月～金 午前9時から午後6時(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

最新情報はホームページや各種SNSでも発信しております。



友だち登録募集中

<https://machida-support.or.jp>



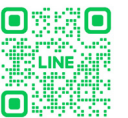
まちだづくりのコミュニケーション誌

# サポートオフィス 通信

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 発行

2025 AUG vol.60

公式LINE  
始めました



友だち登録で  
最新情報配信中！



▲2025年度まちだづくりカレッジ講座の様子。参加者同士の交流が深まることも本講座の大きな特徴です。

## Now | 近況報告 |

### まちだづくりカレッジ2025 順調に進んでいます！

6月から開始したまちだづくりカレッジでは、個人向け「ナリワイコース」・団体向け「組織づくりコース」とともに、参加者のみなさんが熱量高くワークに取り組んでいます。

ナリワイコースでは、9名が「自分の好きなこと・得意なこと・すごいと言われること」を振り返り、お互いにフィードバックしあうことで、新たな魅力や強みを発見するワークに取り組みました。自分のワクワクや想いを大切に、まちカフェ!で挑戦する「ナリワイ」の準備を進めていきます。組織づくりコースでは、5団体が「ビジョン・ミッション・バリュー」や、事業を届けたい相手を具現化する「ペルソナ」の作成などに取り組んでいます。メンバー同士で対話し、活動を俯瞰してみることで、今後の展望を具体的に考えていきます。

#### 「フィードバック」のコツ

カレッジで大切にしているフィードバックとは、気づいたことを伝えること。お互いがもっと良くなるように良かった点や改善点を伝える際のコツをご紹介します。

- ✓ よく聴く
- ✓ 否定・断定しない
- ✓ 自分の意見を率直に伝える
- ✓ 相手を応援する気持ちで届ける

「フィードバックを受けたアイデアや意見はすべて取り入れなくてもOK!」という共通認識を持つことで、気楽に伝えたり受け取ったりすることができます。

#### カレッジ卒業生もたくさん

これまでの参加者は組織づくりコース25団体、ナリワイコース14名！  
まちだづくりカレッジ参加をきっかけの一つとして協働事業が広がった団体の事例を紹介します。

詳しくは次ページへ

各コースの詳細や講義の様子はこちら！





## 協働プロジェクトの成果と進め方のコツ

## 町田いぬねこ守り手ネットワーク × 自然派くらぶ生活協同組合

多くの市民活動団体が取り組む課題は、一つの団体だけでは解決が難しいことも少なくありません。その時に他団体や組織との協働が必要になりますが、協働は、ルール、価値観、文化の違うもの同士が取り組むので、簡単には進みません。今回は、協働でプロジェクトを進めている2団体へのインタビューを通じて協働のコツを探りました。

町田いぬねこ守り手ネットワーク  
立ち上げの背景

町田市での犬猫保護活動は、

ほとんどが小規模なグループや個人で行われており、活動に必要な寄付やボランティア募集、啓発活動に手が回らないのが現状です。

そのため、支援の輪が広がらず、

活動費や治療費も自己負担で活動しているのが現状です。

市内では、月に10件近くの保護依頼が寄せられることもあり、そのニーズはますます高まっています。

町田いぬねこ守り手ネットワーク(以下 守り手)は、保護活動家や支援者をつなげ、啓発活動を通じて、人と動物が共に安全に幸せに暮らせる社会の実現を目指して設立されました。



## 協働プロジェクトのはじまり

自然派くらぶは、他団体との連携による地域貢献プログラムを模索している中で、サポートオフィスを通じて守り手と出会い、協働が始まりました。

自然派くらぶの「いのち」「くらし」「地域」という理念と、守り手の目指す社会が一致したこと、また活動立ち上げ期であった守り手と「ともに作り上げられる」と感じたことが、協働を決めた大きな理由です。

当初2年間の予定だった協働プロジェクトは、成果を受けて4年間2期に延長され、現在2年目が始まっています。



## これまでの取り組みと成果

ペット防災  
セミナーシリーズの開催

2025年5月までに3回実施。これまでのテーマは、「命を守る力とペット避難(町田市防災課からのお話し)」「自宅シェルター化計画」「ローリングストックとペットのための備え」です。



▲ペット防災セミナーの様子

## ↓ 成果

- 町田市防災課との連携がスタート
- 参加者のべ61人、参加者の9割が「参加してよかった」と回答
- 自然派くらぶ会員の獣医師が講師として参画することが決定

## ↓ メッセージ

町田市防災課 山内紘一さん

災害時における飼育動物に関して、町田市地域防災計画に動物救護対策を明記しているものの、まだまだ対策が知られていないのが実情です。町田いぬねこ守り手ネットワークさんからセミナー開催のご相談があり、共通の目標を達成するために有意義だと感じ、実施させていただきました。ベクトルの足し算のように、双方の狙いの先に新たな展開が生まれると期待しています。現在、防災アンバサダーとしてもご活動いただいております。

地域イベント  
への参加

第18回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ!に出展し、「ふだんの活動にプラスON事業」(町田市市民生活安全課事業)として、犬の散歩時の「ながら防犯」や、猫の事故防止をテーマにした交通安全啓発チラシを配布しました。チラシ作成にあたって、市民生活安全課担当者と勉強会を実施しスタッフも知識を深めました。まちカフェ!当日は、いぬねこのシールや反射材シールを組み合わせる缶バッジを作るワークショップに111名が参加。参加者からは、「子どもが楽しく缶バッジを作る横で大人も防犯や交通安全について学べてよかった」「自分にできることを考えたい」という声がありました。その他、「自然派くらぶまつり」などにも出展しました。

高校生ボランティアの  
受け入れ

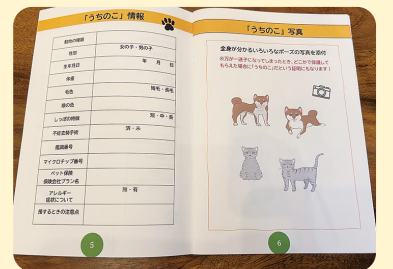
都立小川高校の奉仕活動の授業で43名の高校生が活動に参加。高校生からは「知ることができて良かった」「自分も出来ることはしていきたい」という声がありました。引き続き学生の受け入れをすすめています。



左から大久保奈緒子さん、菊地あゆみさん(自然派くらぶ) / 中野りんこさん、河底有花さん(守り手) ▶

「飼い主証明書ブック」  
の制作

飼い主証明書ブックを100冊発行しました。購入者から「自分が万が一の時に、この子のことを誰かにちゃんと伝えられるように購入した」「うちの子を守るのは自分!」という意識が強くなった」という声がありました。



## 🐾 今後の取り組み

引き続き「ペット防災セミナー」のシリーズを実施予定です。その他にも「認定メンバー」として登録された市内で保護活動に取り組む小規模団体に対し、資金支援や人的サポート支援を行う取り組みを本格的に進めています。また、守り手自身も、預かりボランティアチーム(守り手預かり部)を立ち上げ、保護活動の一端を担っています。

町田いぬねこ守り手  
ネットワーク  
ホームページ



守り手預かり部  
Instagram



## 協働のコツ

## お互いの強みを活かす

守り手による現場のリアルなニーズに基づく柔軟なアイデアと、自然派くらぶが持つ会員のネットワークや、これまでの組織運営で培った運営力が合わさることで、プロジェクトが一つひとつ形になりました。また、法人として活動する自然派くらぶは、理事会や総会への説明なども必要であり、結果的にそのことがプロジェクトの言語化やタスク管理にもつながりました。

## お楽しみの時間も大切にする

昨年末には、自然派くらぶ会員のご自宅で作り料理を持ち寄る忘年会を開催。こうしたプライベートな時間の共有によって、お互いの価値観への理解が深まったそうです。このような時間も協働を進める上では重要です。実は、自然派くらぶ理事のお二人も会員のご自宅に伺ったのは、初めてとのこと。外部と協働をすることでそれぞれの団体や組織内での関係性も変化するということも協働の成果の一つかもしれません。

## 丁寧な対話と理解

「お互い知らなくて当然」という前提で、月1回「お茶会」と称する作戦会議を実行。つい「知っていて当たり前」と思いがちですが、取り組むプロジェクトの背景や現場の実情を共有することが、共通理解を醸成するためには不可欠です。また、それぞれの組織にはそれぞれの事情もあるため、「できること」「できないこと」もきちんと説明し、お互いを理解していくことが重要です。お茶会でもアイデアを発散する役割(守り手)と交通整理や記録をする役割(自然派くらぶ)とうまくお互いの強みが出ていたようです。

## サポートオフィススタッフから

町田いぬねこ守り手ネットワークは立ち上げ当初は実働2名でしたが、自然派くらぶとの出会いをきっかけに活動が大きく前進し、現在では11名体制に。多くの支えを受けながら、活動の幅も着実に広がっています。インタビューでは、お互いへのリスペクトを感じる場面が多かったのが印象的でした。